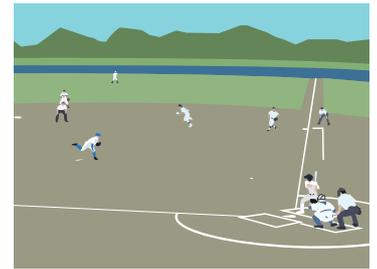




懐かしの「鳥屋野球場」

小学生の頃、新潟市中央区にある「鳥屋野球場」はあこがれの場所でした。年に数試合、プロ野球の南海や近鉄、阪急、横浜大洋などの試合が組まれ、家族でプロ野球観戦を楽しみました。



観戦する場所は決まって「外野席」。クーラーボックスにビールやジュースを詰めて、お弁当やお菓子をもって、芝生にシートを敷いて……。お弁当を食べていると、危険を知らせる笛の音が鳴り、打撃練習の大きな打球が飛んできて、カラダに当たらないかとヒヤヒヤしました。福本の盗塁や、野村のホームランなど、一流のプレーに興奮しました。

90年代以降はプロ野球の興行がなくなり、近年は老朽化が顕著になり、建て替えが議論されているとのこと。建設から60年、新しく生まれ変わる鳥屋野球場も楽しみですね。

「Eco列車でいこう！」～第170回～ 天童ラ・フランスマラソン。

(CO2排出量の少ない交通機関での旅行や、心が豊かになるような旅行を照会するコーナーです！)



夏太りを解消するために、マラソン大会にエントリーすることにした。楽しそうな大会を探していると、山形県天童市の「ラ・フランスマラソン」というのを見つけた。わずかな練習の末、大会が近づく。

大会前夜、山形駅前の焼肉屋で腹ごしらえ。「レモンサワー飲み放題」なるものをオーダーし、痛飲。そして迎えた当日。晴天の下、天童市の陸上競技場からスタート。マラソンコースには6カ所の「給水所」があり、水・スポーツドリンクの他、「ラムネ菓子」や「さくらんぼ飴」などの名産品が提供される。果樹園の中をのんびり走り、沿道のおばあちゃんらの応援に手を振り返す。第3給水所では、「ラ・フランス」の振る舞いがある。新鮮でうまい。それはいいのだが、アップダウンを繰り返すタフなコースだし、給水所ごとにいろいろなものを食べたりしているので、なかなかゴールが近づかない。

15kmを過ぎてパワーが無くなりだした。歩きたくなるが、第5給水所の「まんじゅう」で生き返る。第6給水所では再びの「ラ・フランス」とともに、網走市提供の「ズワイガニほぐし身」が供された。マラソン大会でカニとは、なんとも豪華である。おいしく塩分を補給し、無事にハーフマラソンを完走した。

ゴールのご褒美は「ラ・フランス食べ放題」。列に並べば、いくらでも食べることができた。さらに山形名物「芋煮」も無料。お土産は「化粧箱入りラフランス(3個)」。記念のTシャツもついて、参加費は4000円。こんなにコストパフォーマンスのいいマラソン大会は初めてかもしれない。

天童温泉で一浴し、新潟へ戻った。もちろん夏太りの解消にはいたらなかった。そしてまた年末年始が訪れる。「正月太り」をして、その解消のために、どこかのマラソン大会に申し込むに違いない。



今年は10回目の記念大会だ



化粧箱入りのラフランスをいただく



「芋煮」は具だくさんだった